

# 民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ

明けましておめでとうございます

学問の自由・大学の自治を守れ 国立大学法人法改悪 6、7面

次号は1月15日付になります

▶ ホームページ [www.dylj.or.jp](http://www.dylj.or.jp)

▶ Eメール [minsins@dylj.or.jp](mailto:minsins@dylj.or.jp)

## 青年に出会いに行った ことが自信に

2023年、民青同盟は大会期目標を大きく上回る拡大を成し遂げ、民青同盟の役割がより鮮明になっています。3都府県委員長座談会を行い、民青同盟への加盟が増えることの意味などについて交流しました。司会は中山歩美中央副委員長です。(編集局)

**中山** 第47回全国大会、お眠後19時まで勤務。その疲れさまでした。前大会期「という青年と19時すぎをふり返って、いかがでしたか」という問いに「加盟するたか。」

**新田** 東京では800人の年の加盟もありました。同時目標を超過達成して、83に、「自分は大変じゃない」と思っている青年も、何かしら今の政治におかし

呼びかけ文を読んで粘り強く訴えれば皆さんの仲間を迎えられる。を指針に、青年のなかに分け入り、て拡大する努力を続けてき

ました。街頭で青年のなかに分け入ることで、情勢も青年の変化を感じました。加盟呼びかけ文を読んで「みなさんみたいに実際に対話している人がいるのが

本当に大事」と話して加盟した青年や、「これまではSNSでしか行動する同世代を見たことなかった。自

分の地元で、こんなに真面目に社会のことを考えている人たちが実在するんだ。自分も考えなきゃいけないと思った」と話す青年などに出会いました。

「深夜1時から朝6時まで夜勤、会社内で2時間放出どう思いますか？」と

## 草の根から運動広げ、青年の力で新しい政治つくろう



### 新春座談会 2024

#### 座談会参加者

(上写真左から)  
新田祐也東京都委員長、七海菜里福島県委員長、寺島拓人京都府委員長、中山歩美中央副委員長(司会)

というシールボードを作った。役員が成長しました。民青の活動がみ合う宣言に出ました。すると、数年、宣伝で対話して、活動や展望を届けたという「賛成」「反対」の項目もありましたが、「どちらともいえない」にシールを貼る青年が多かった。理由を聞くと、「流してほしくないけど、それしか復興の選抜がないのなら、仕方がないのかな」という理由が大半でした。それとも、強引に決められてしまったことへのためらいも口々に語られて、これが、「青年の巨大な模索」の福島での表れだと感じました。

**中山** 原発事故と、復興の展望を示さない岸田政権の横暴の中で、福島の青年みんなが模索を強めているんですね。そこに働きかけたからその目標達成だったんだと感じました。

**寺島** 京都では目標達成に届かず悔しかったですが、167名の仲間を迎えたことの意味はとも大きくいです。それぞれ触れられていたように、やっぱり青年の実態と模索に出会うことで、僕自身の社会変えたい思いについても本当に大きくなりました。また、青年の変化に触れることで、役員が成長しました。民青の活動がみ合う宣言に出ました。数年、宣伝で対話して、活動や展望を届けたという「賛成」「反対」の項目もありましたが、「どちらともいえない」にシールを貼る青年が多かった。理由を聞くと、「流してほしくないけど、それしか復興の選抜がないのなら、仕方がないのかな」という理由が大半でした。それとも、強引に決められてしまったことへのためらいも口々に語られて、これが、「青年の巨大な模索」の福島での表れだと感じました。

**中山** いま民青がとても大きくなっている中で、同盟員が増えることの意味をみなさんはどのように考えていますか。一つ目に、一人ひとりの青年にとって、民青に入ることってどんな意味があるのでしょうか。七海 自分がなぜ民青に入ったんだろうってふり返ったんですけど、私が福島で原発事故を経験した17歳のとき、なぜこの事故が起こったのか全然分からなかったのか全然分からなかったのか、危険な原発をつくったのか、危険性があることを知らなかったのか、などと思行われた第47回全国大会で思っていました。「おかしこと、今の社会で苦しむ青年が民青と出会い、自ら責任を担って社会の構造は、その人の人生にとってできるよ」と加盟をうったえられて、民青の加盟

**中山** 僕が思っていたことが全部言語化されています」と言っていて加盟したんです。またある労働者は、班会がある曜日が嫌な仕事がある曜日で、「あと〇時間働いたら、班会に行ける」と思っていたら、班会に行けるんですよ。

**七海** 七海さんが言った通り、本当に多くの青年が模索しているんですよ。しかし一方では偽りの展望を振りまく人々がいて、青年は何かおかしなこと、何かおかしな状態に思っている青年が多いと思います。その中で霧が晴れるように、おかしさの根本や、どうしたらいいのかが見えてくる。そして実際に社会を変えていくって、その青年にとって最大の要求実現となっていくわけなんです。そうした仲間との会いを通して、「おかしこと、今の社会で苦しむ青年が民青と出会い、自ら責任を担って社会の構造は、その人の人生にとってできるよ」と加盟をうったえられて、民青の加盟